

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 3月7日 10:55AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,000～38,700 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 38,000～44,000 ドル
(S&P500) 5000～6000

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～20,200

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 139.000～154.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～108.523

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

2025年に日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇によって最高値を更新するでしょう。そのターゲットは[4万3000円-4万5000円]です※。

この第(5)波上昇を以て、コロナショック底以来5年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の3年間』完結)、その後はプライマリー第④波による停滞局面に移るでしょう。

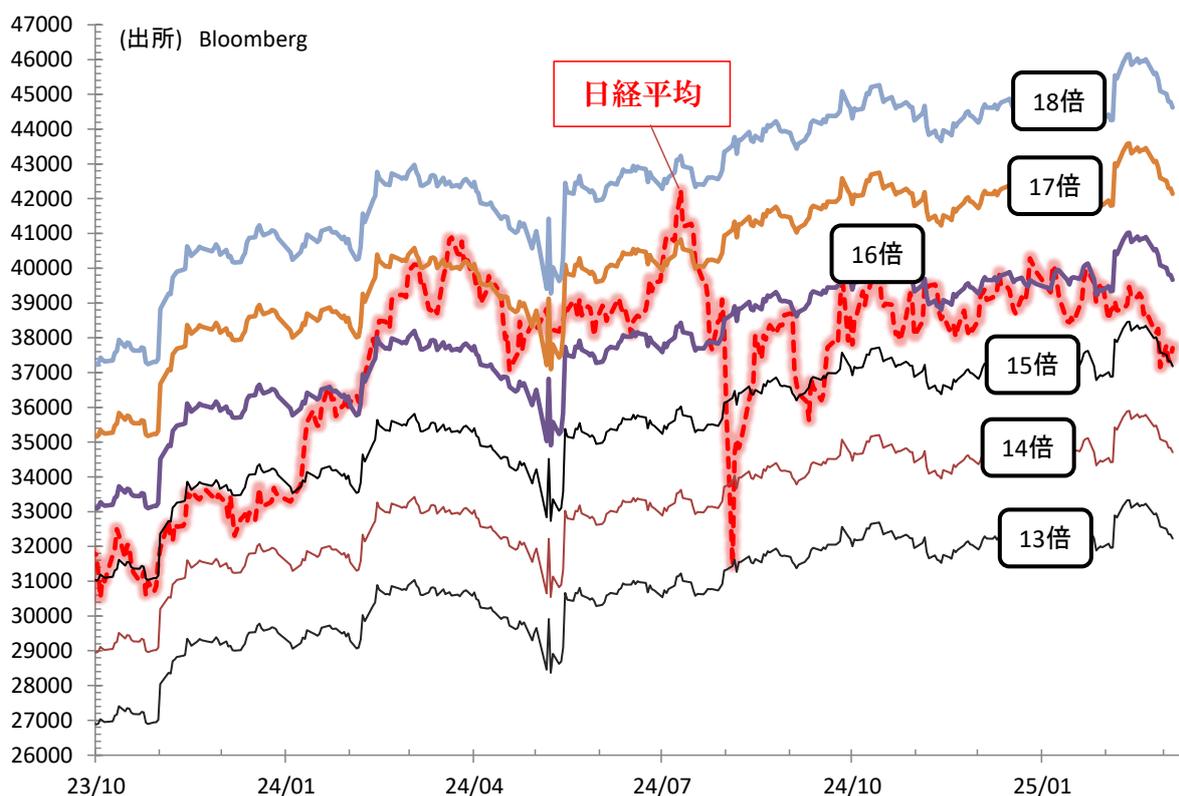
24年7月以来のインターミディエイト級第(4)波の調整は続いています。第(2)波が「ジグザグ」だったことから、オルタネーションに則り、第(4)波形状は「トライアングル」、「フラット」、などの保ち合い型になるでしょう。年初から(4)-C波による下落が進行中とみられ、3月中にも(24年8月底に次ぐ)二番底を付けるでしょう。この二番底は、第(5)波上昇トレンドの(事実上の)開始点になると思われます。

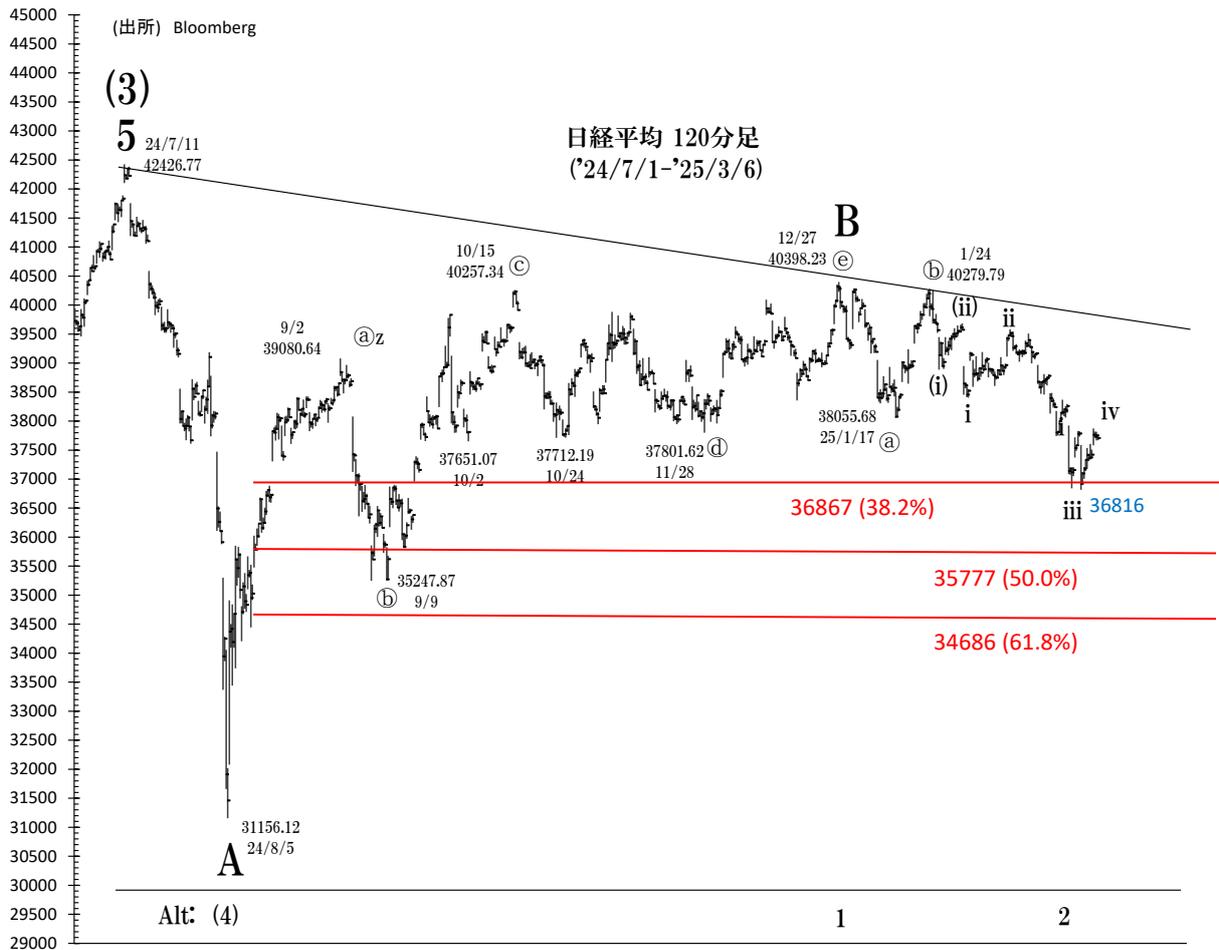
※2025年の日経平均予想レンジは[3万5000円-4万5000円]です。



[予想 PER 別の日経平均水準]

日経平均予想 EPS は 2478 円(3/6)。過去最高は 2564 円(2/13)です。





【時間足 エリオット波動分析】

40,398 円(12/27 高値)からは、第(4)波「シンメトリカル・トライアングル」(A-B-C-D-E)における、C 波の下落に当たります。この C 波により日経平均は、24 年 8 月底に次ぐ二番底を付ける、と見込まれます。

季節性からみると、決算期末の 3 月は軟調になりやすい上(いわゆる「彼岸底」の月です)、今年 3 月は「三日新甫」(月最初の取引日が 3 日から始まる)であり、波乱の展開を予感させます。

3 月 4 日に一時 36,816 円まで下げ、反発の動きとなっています。フィボナッチ比率の節目[36,867 円]が意識された格好です。これはサブミニユエット級の第 iv 波によるリバウンドでしょう。

この第 iv 波が終わると、次は第 v 波の下落に移り、それは[35,777 円](B 波の半値押し)、[34,686 円](同 61.8%押し)などを順次、打診することでしょう。

NYダウ・S&P500



【日足 エリオット波動分析】

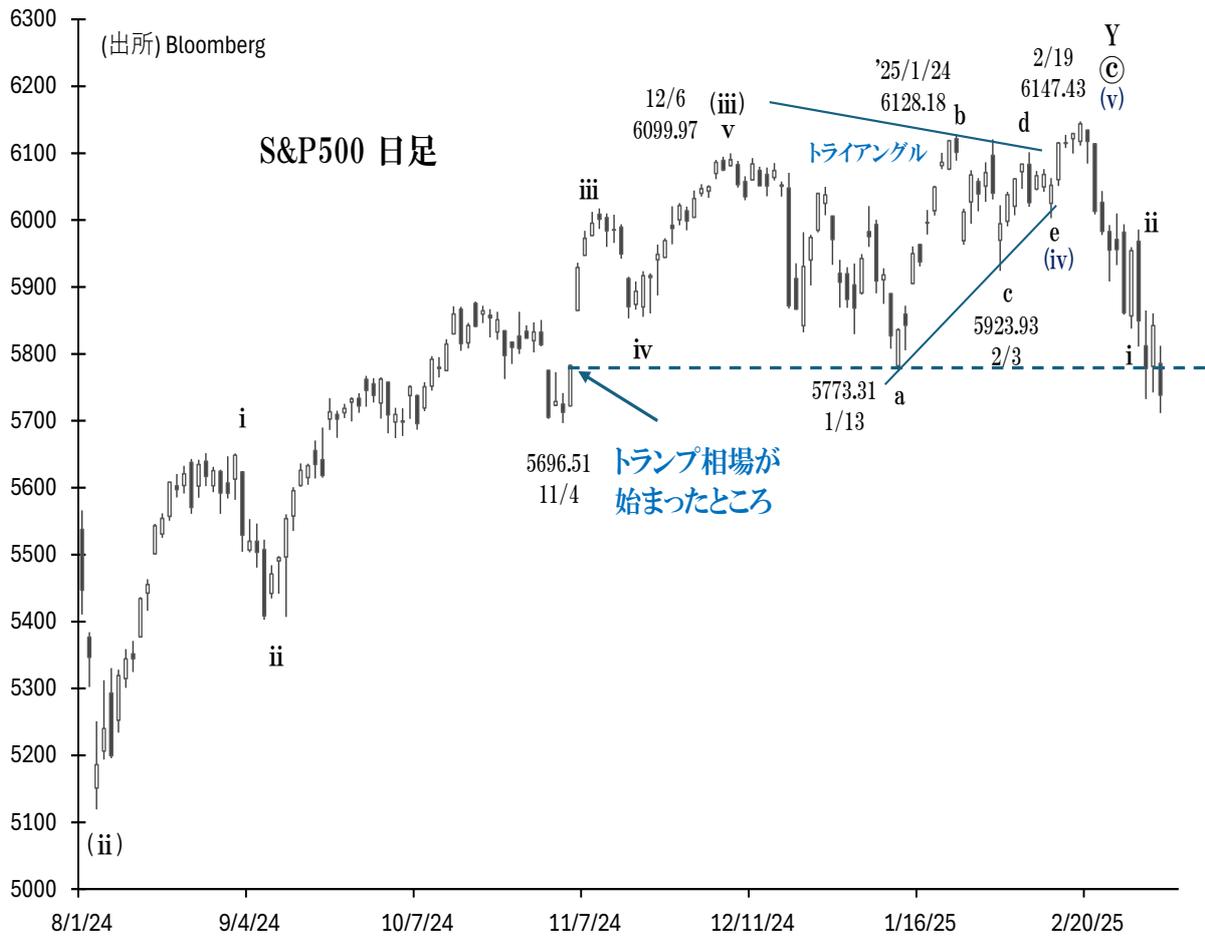
NYダウは、22年10月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波を45,073ドル(12/4高値)で完成し、(C)波の下落局面に突入した可能性が高い、とみています。それは先々、22年10月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう。

22年1月～10月の(A)波は22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、あるいはより大きな下落スケールになると思われます。

今後数カ月内の下値ターゲットとして注目される水準は、24年4月安値(37,611ドル)です。これは[エンディング・ダイアゴナル]開始点の水準のことで、この時点におけるNYダウの高値からの下げ率は16.5%です。

短期的にも41,844ドル(1/13安値)を試すでしょう。この付近には200日MA(41,897ドル)も控えていることから、いったんは下げ渋るかもしれません。

主要指数のなかでNYダウ30は唯一、強気カウントを辛うじて残しています。しかし、それはもはや風前の灯です。



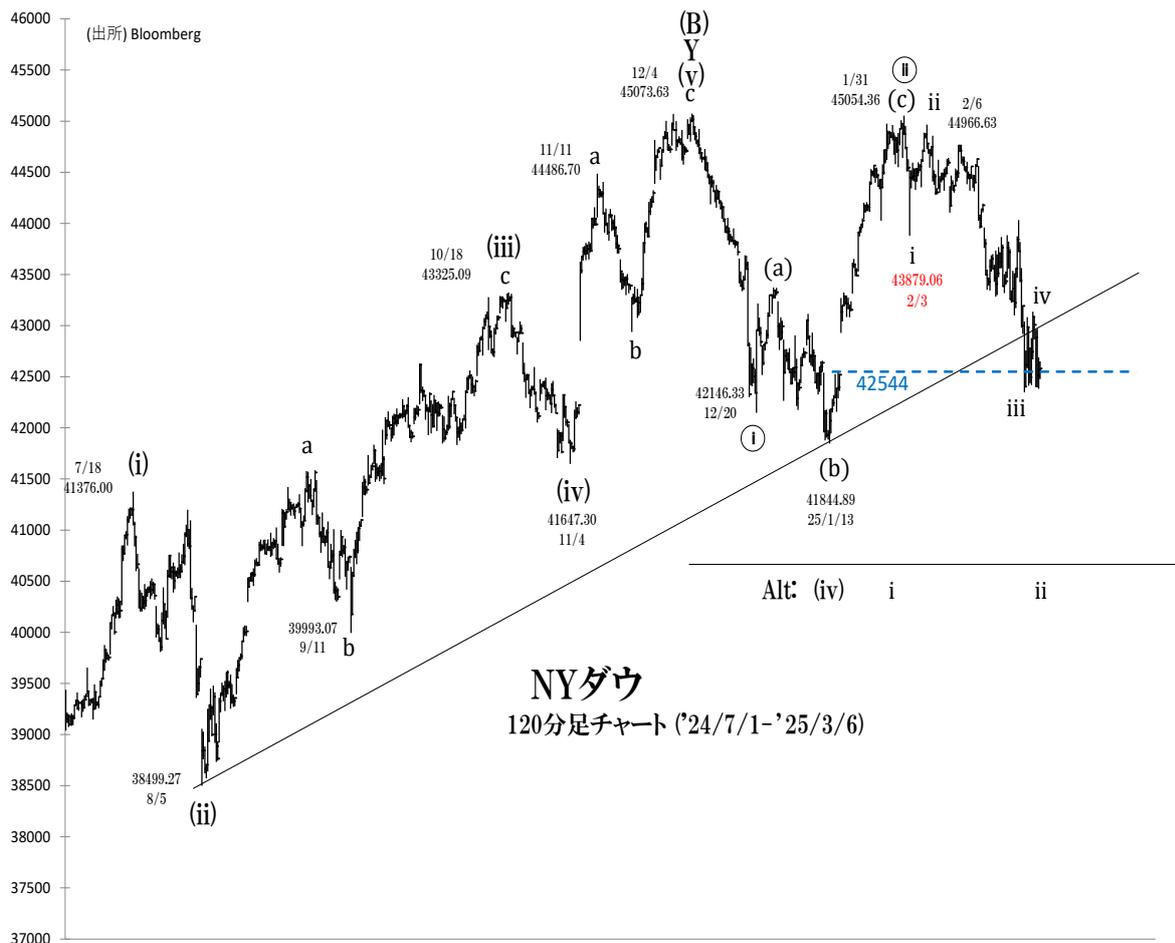
【S&P500 日足 エリオット波動分析】

3月6日のS&P500終値は5738と、24年米大統領選投票日前日(11月5日)の終値5782を下回りました。これにより、**トランプ相場の上昇分はすべて消滅した**ことになります。

より注目すべきなのは、5773(1/13安値)を下回ったことです。この動きにより、5773を起点とする上昇トレンドのシナリオが否定され、**一段と大きな調整に入った可能性が高まりました**。

3月6日安値は5711ですが、これは昨年11月4日安値[5696]に近似です。この辺りで下げ渋り、目先リバウンドはあるかもしれません。

もっとも、一時的なリバウンドがあっても**ダウトレンドは続き、最終的には22年10月以降で最大の調整になる**でしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

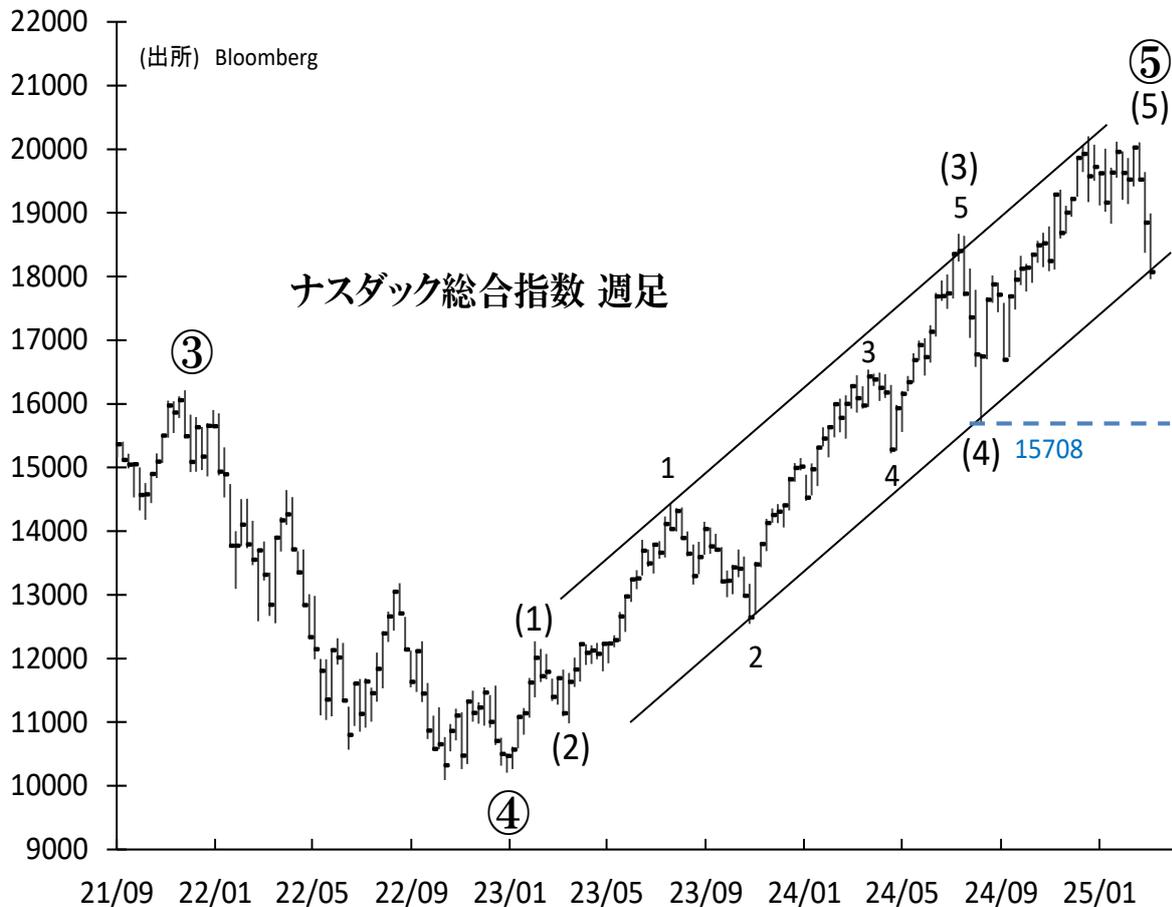
45,054ドル(1/31 高値)からマル iii 波による下落が進行中と思われます。

3月4日には一時42,347ドルまで下げ、1月14日-15日のマド埋め(42,544ドル)を完了し、昨年8月と今年1月安値同士を通るサポートラインから明確に下放れました。

日足分析で書きましたが、4万2000ドルのやや下のレベルの短期サポートレベルでは下げ渋りもありそうです。

なお [41,844ドル]を下回ると、昨年12月と今年1月の「ダブル・トップ」が確定し、下げ基調が一段と加速する可能性があります。

ナスダック



【ナスダック総合指数 週足 エリオット波動分析】

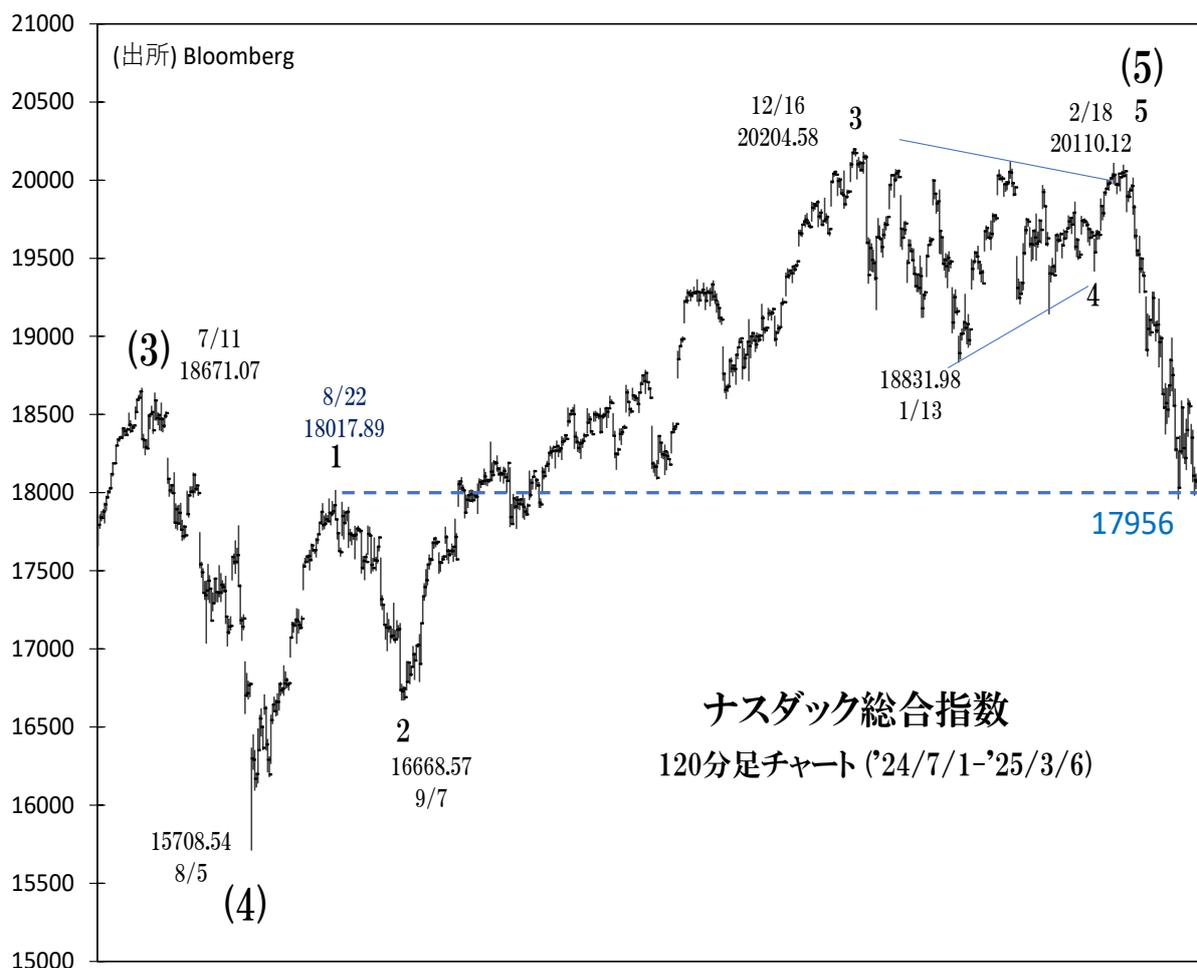
ナスダック 100 もナスダック総合指数(以下、ナスダック)も 1 月 13 日安値を下回り、両者の「未確認」(前者の最高値は 24 年 12 月ですが後者は今年 2 月)が確定しました。米主要ハイテク株は長期的な天井を付けた可能性が高い、とみています。

ナスダックは、22 年 12 月安値(10,207)以来のプライマリー級第⑤波を完了し、サイクル級の調整に入った可能性があります。この見方が正しければ、今後の調整規模は大きく、期間も長くなるでしょう。

2023 年からのサポートライン(1 万 8000 処)を、目目的にも試す局面となっています。いったんリバウンド入りか、一気に下放れの動きになるかを注目しましょう。

基本観は弱気です。近い将来ナスダックは、24 年 8 月安値[15,708](レツサーディグリー(4)波安値)を試す可能性が高いでしょう。





【時間足 エリオット波動分析】

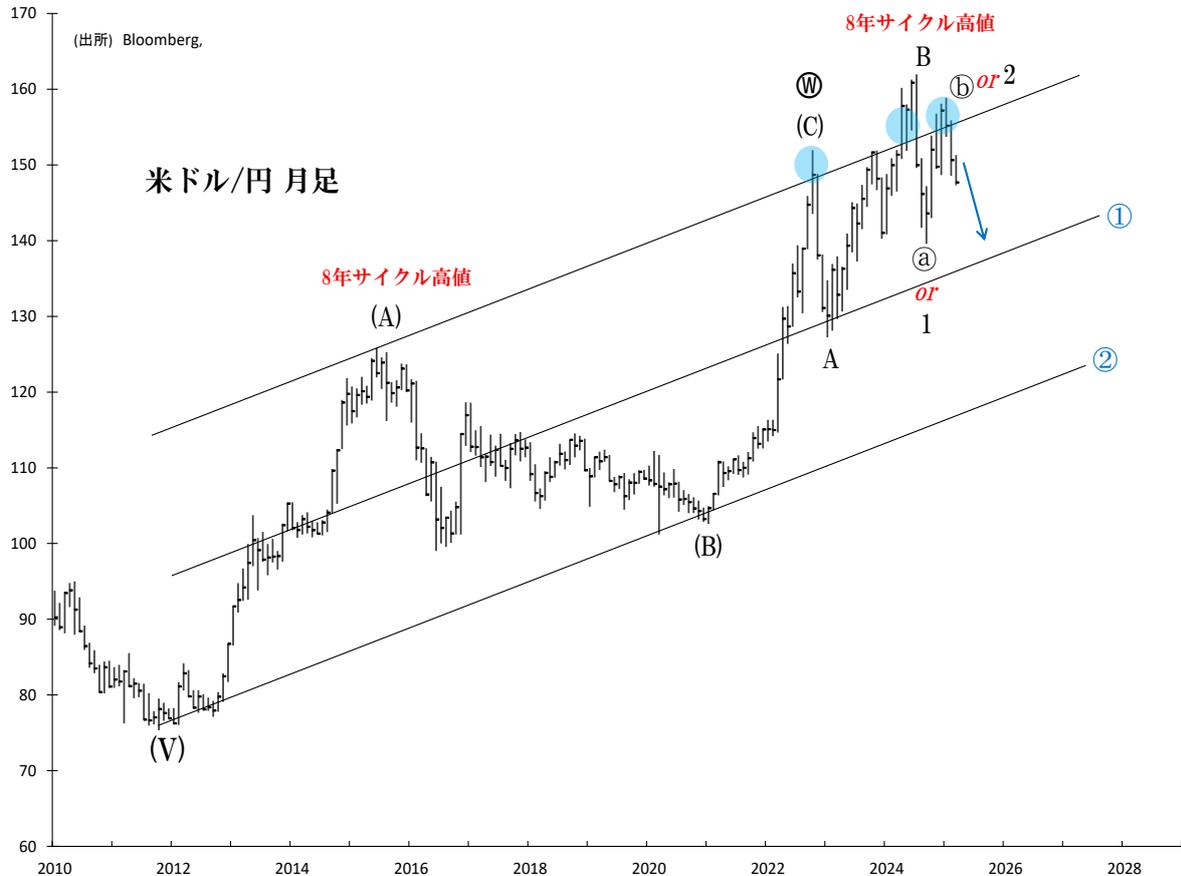
20,110(2/18 高値)を以て第 5 波による上昇は完了し—それは最高値に未達の『短縮された第 5 波 (truncated fifth wave)』だったようです—本格的な調整に入った可能性があります。

3 月 4 日には一時 17,956 まで下げましたが、これは 24 年 8 月からの上昇に対する半値押しにジャストであり、いったん下げ渋るかもしれません。

もっとも昨年 8 月 22 日高値(18,017)とオーバーラップしており、24 年 12 月から第 4 波の調整という可能性は消えました。

遠からず節目の 1 万 8000 処を下抜くとみられ、その場合、次のサポートレベルは **[17,426]**(24 年 8 月からの上昇に対する 61.8%押し)です。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24年7月の161.938円は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

22年10月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行C波はA波安値(127.158円)を下回りません。C波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(①)が強いサポートになるでしょう。

①の水準は136.165円(3月)に位置します。

②の場合は、現行C波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は116.540円(3月)です。



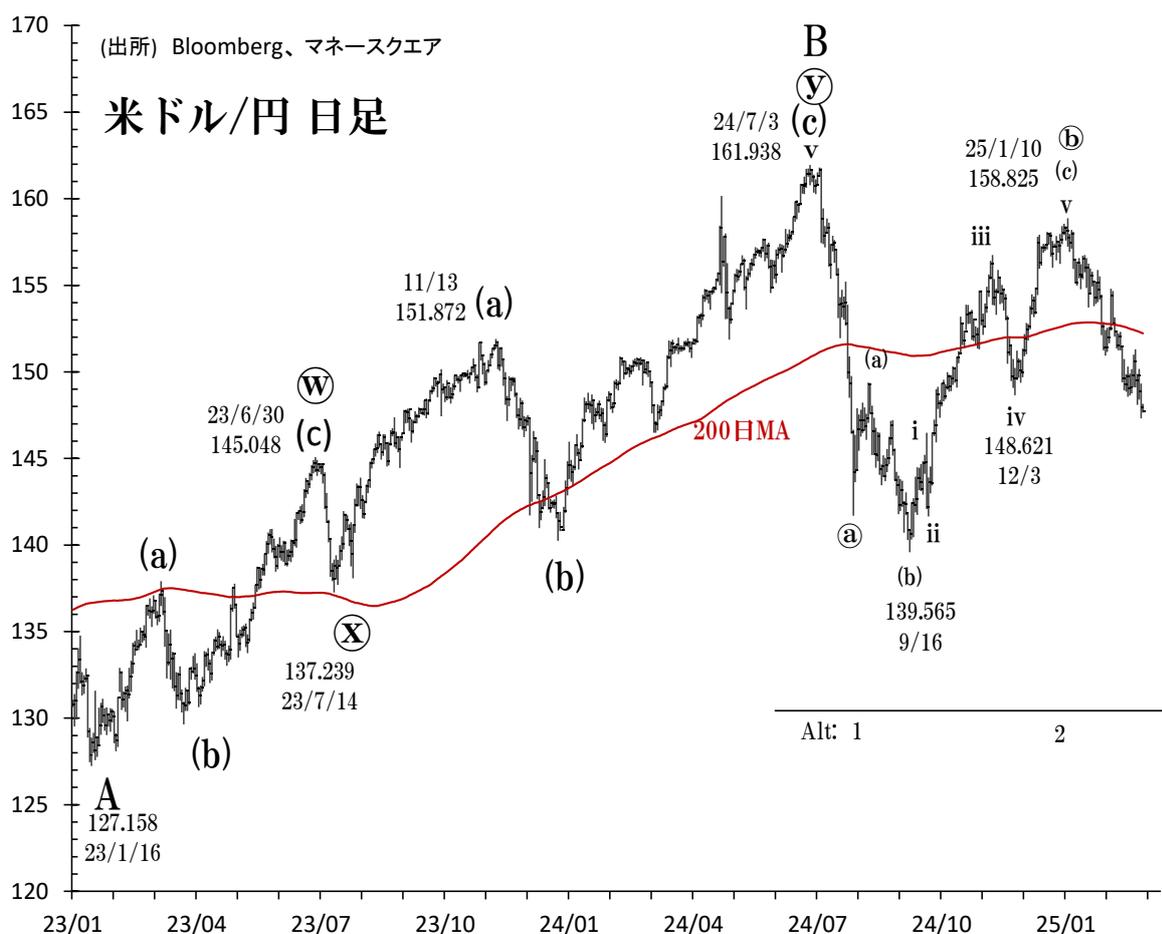
【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(24/7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドです。月足分析で記した B 波[トライアングル]説によれば、C 波は三波構成(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)になります。158.825 円(1/10)から、Ⓒ波によるドル安・円高が進行中とみられます。

ドル/円は今後数カ月内に、24 年 9 月の 139.565 円を下抜くでしょう。その際は以下の水準がⒸ波ターゲットとして注目できます。

[138.517 円]…Ⓐ波とⒸ波が等しく下がる水準

[136.452 円]…24 年 7 月から 9 月までドル/円下落幅と、今年 1 月からのドル/円下落幅が等しい



【日足 エリオット波動分析】

ドル/円は3月6日、一時147.299円まで下げました。

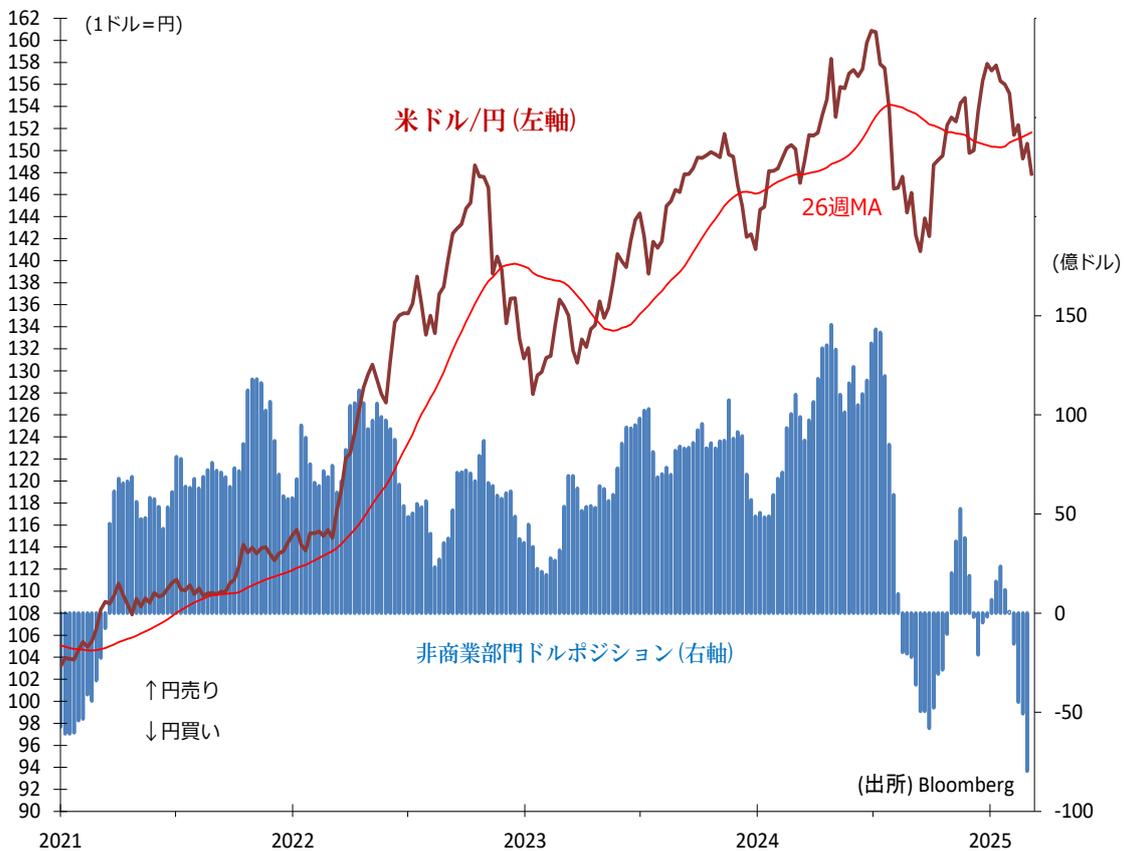
目先のにも、**[146.922円]** (9月からのドル/円上昇の61.8%戻り)を試す可能性があります。

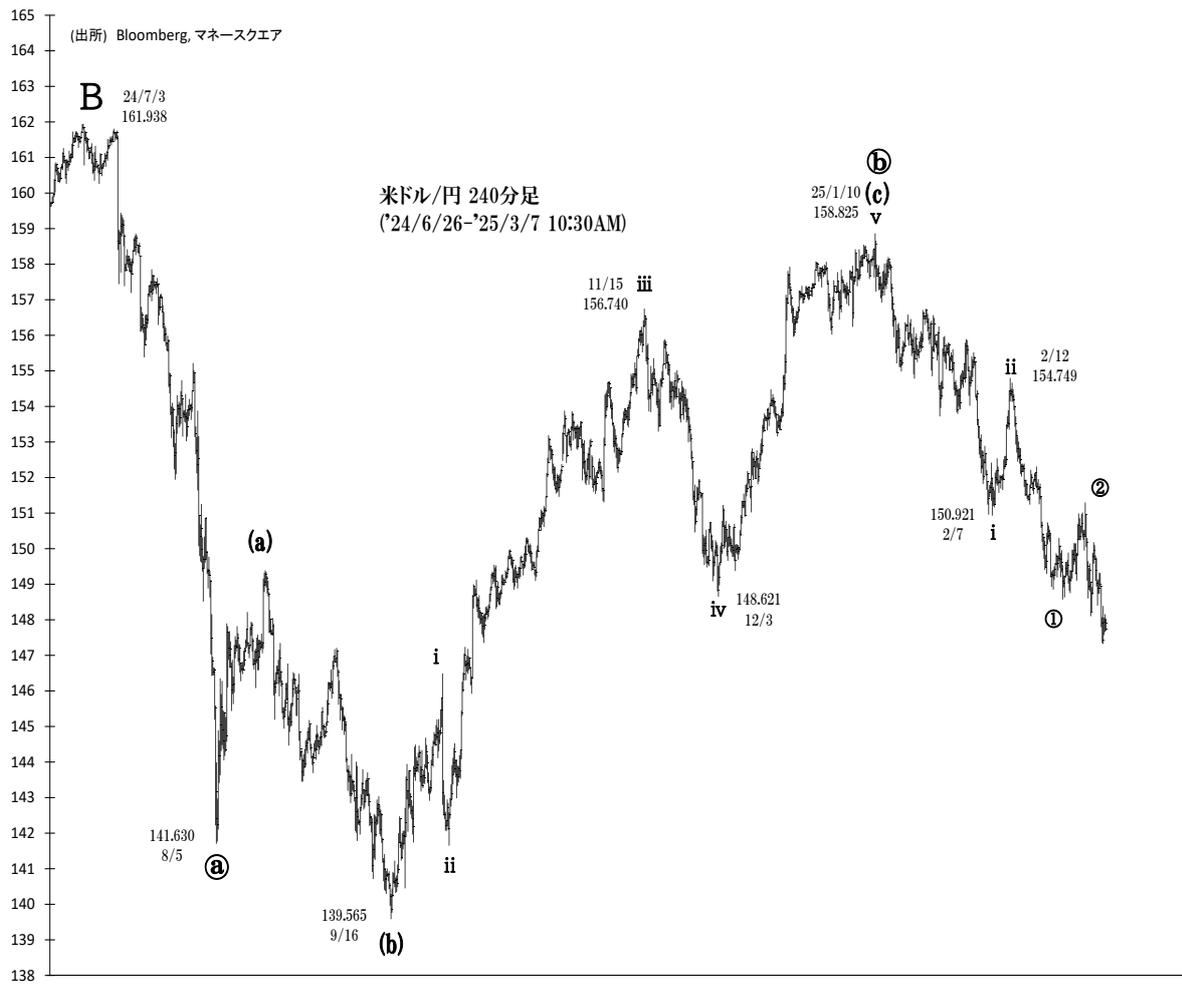
金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は**[144.607円]**です。

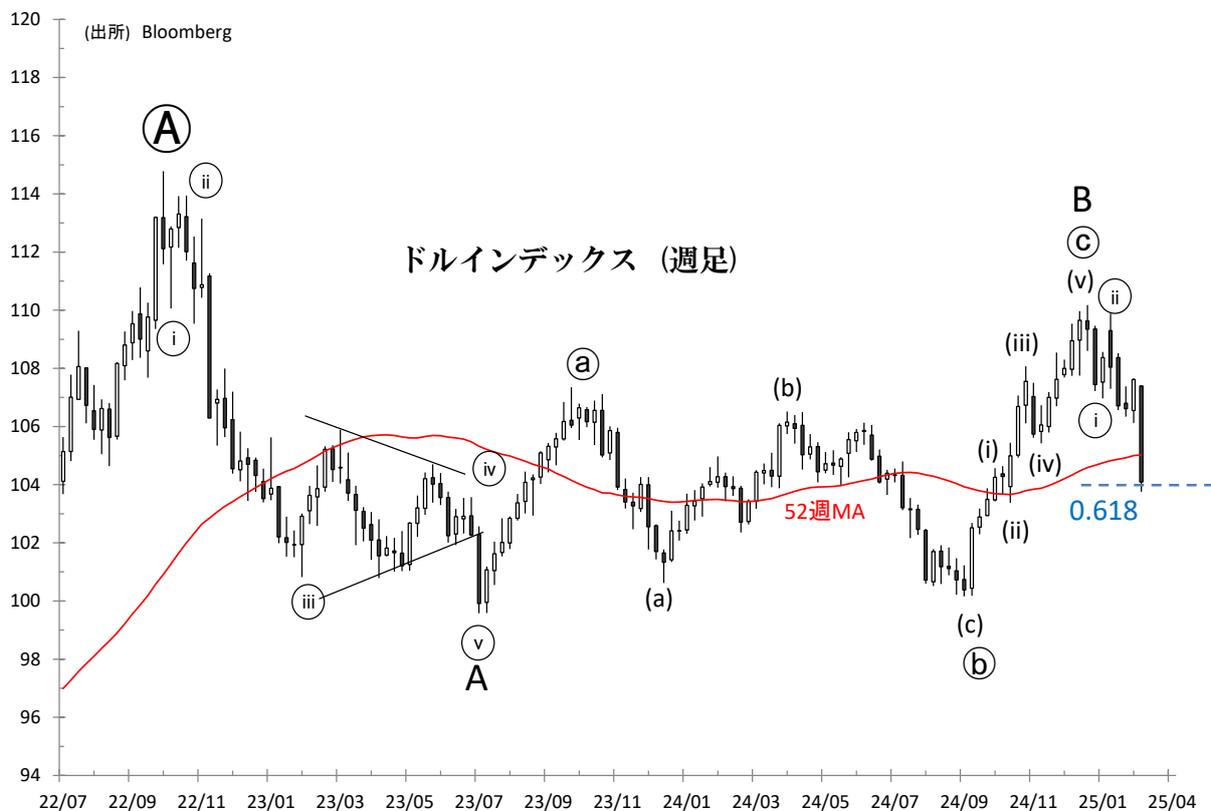
投機筋の円買い持ち高は2016年10月以来の水準に(2025年2月25日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の50.7億ドルから79.6億ドルへ増えました。円買い持ち高水準は2016年10月4日(84.7億ドル)以来の水準です。





ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

110.176(1/13 高値)からのドル安は、C 波に位置付けられます。

109.881(2/3 高値)から C-マル iii 波によるドル安が進行中です。

今週はドル安が加速し—この波動位置に相応しく—5 カ月ぶりに 52 週 MA を下抜きました。

3 月 6 日には一時 103.761 までドル安が進み、B 波-ⓐ波の 61.8%押し[103.984]を達成しました。

いったん下げ一服となるか、あるいは、フィボナッチ比率のサポートを一気に下抜きドル安が強まるのか、目先の注目ポイントを迎えています。

22 年 9 月～23 年 7 月の A 波において、ドルは 10 カ月で 13.2%減価しました。この A 波の期間と下落率は、C 波を考える上で参考になります。ドル指数の 1 月高値からの下落率は 5.5%であり、本格的なドル安はこれからと思われれます。

筆者はドル指数が今年中に、23 年安値[99.578]を大きく下回る可能性をみています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
